

## インタビュー INTERVIEW vol.01

聴覚障害者

熊倉 昴裕さん(会社員)

※インタビューは、手話通訳の方を交え、手話を用いて行いました。



栃木県出身。就職して、田原市へ。生まれつき耳が聞こえない「ろう者」で、小学校までは普通学級へ通っていたが、中学、高校は地元のろう学校へ通い、手話を学んだ。趣味はサーフィンやキャンプ。友人たちと海が近い田原市での生活を楽しんでいる。

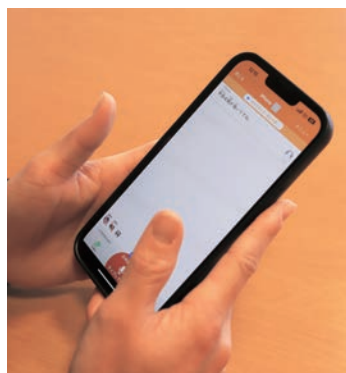
### ● 普段の生活で困ることはありますか？

コンビニのレジで「箸やスプーンが要りますか?」と聞かれますよね。そのやりとりが上手く伝わらず、困ることがあります。店によっては、イラストを指差して伝えられるようになっていたりするところもあって、助かります。レストランやカフェでも、支払い方法などを指差しできるように、用意してくれているお店もあります。そういうお店は、また足を運びたくくなります。

### ● 職場でのコミュニケーション方法は？

「UDトーク」というアプリを使って、コミュニケーションをとっています。同じ部署の人は、全員スマートフォンにこのアプリを入れてくれています。

上司の指示は、このアプリで理解します。私は口話(音声で話すこと)が得意ではないので、伝えたいことを音声で発してくれる機能にも助けられています。



UDトーク



▲相手が話す音声をマイクで聞き取り、文字として表してくれるため、指示が聞き取れる。熊倉さん側から伝えたい内容も、文字に打って相手に示すことができる。

### ● 予期せず困った経験はありますか？

やはり災害の時は、不安が大きくなります。東日本大震災の時は小学生だったので、先生の指示で避難しましたが、一人だったらどうなっていたか。

今でも電車が急に止まった時など、(放送が聞こえなくて)状況がわからない時は、スマートフォンのメモに書いて、周りの人に尋ねたりしています。

### ● これからチャレンジしてみたいこと

職場でも手話を覚えたいと言ってくれる人がいるので、上手く教える方法を工夫して、たくさんの人に手話を使えるようになってもらいたいです。

### ● さりげなく助けてもらって嬉しかったこと

レストランの順番待ちで、呼ばれてもわからなかった時、隣の人がジェスチャーで教えてくれました。手話でなくて、ジェスチャーや筆談で教えてくれるだけで、とても助かります!

### ● これから田原市にどんなまちになってほしいですか？

ありきたりですが、障害の「ある、なし」に関わらず、みんなが安心して生活できるまちになって欲しいと思っています。

#### 【コミュニケーション支援アプリの例】

SpeechCanvas  
スピーチキャンバス



▲HP

こえとら



▲HP